



学校だより

～学校評価特集号～

令和7年度 第4号
令和8年3月12日発行

香川県立聴覚支援学校

今回の学校だよりは、今年度の学校評価アンケートの集計結果について報告します。
アンケートへのご協力ありがとうございました。

各部の評価

	目標(課題)	取組みと結果	次年度の課題・改善策
幼稚園部	I 生きる力を育むキャリア教育 やりとりを楽しむための個に応じた視覚情報を工夫する。	<p>掲示された文字を読んでたくさんの絵シールから見つける課題に取り組み、語が増えた。1週間の予定を掲示したことで、見通しがもてるようになった。</p> <p>行事に親子活動を取り入れたことで、親子の関わりが増え、2歳児も含めて全員が楽しむことができた。乳幼児の親子は事後に掲示する行事写真を楽しみにしており、写真を見ることで幼稚部のイメージを持つことができてきた。</p>	<p>I 3歳から5歳まで、一人ひとりの子どもの実態に応じた視覚支援教材を作成し、子どもにとって理解が深まりやすい環境を設定する。</p> <p>II 朝の活動や懇談、連絡帳で、子どもの聞こえやコミュニケーション等について、保護者に分かりやすく伝えたり、相談に適切に応じたりする。</p>
	II 専門性の向上 聴覚障害とともに他の障害や病気についても理解する。	<p>個別の教育支援計画、指導計画を中心に年間5回ケース会を行い、教員間で共有できた。</p> <p>保護者学習会では、高等部生徒や保護者の体験談を視聴したり、島根県立松江豊学校元校長の福島先生を招いて研修を実施したりした。他県の聴覚支援学校や施設を見学し、いろいろな視点での思いや関わり方について学ぶことができた。</p> <p>療育施設の見学や担当者会に参加し、具体的な支援を学ぶことができた。</p>	<p>III 乳幼児教育相談やさんさん交流も含めて、幼・保・こども園、デイサービス、医療機関、保健師等の関係機関との連携をより緊密に行い、保護者と情報共有できるように定期的に個別懇談を設ける。</p>
	III 子どもを支える連携 交流、乳幼児教育相談、さんさん交流での関係機関と連携する。	<p>本校教員が保育所やリハビリセンターを見学したり、保育所等の先生が本校の担当者会や学校祭を参観したりすることで、お互いに子どもの違う一面を知ることができた。</p> <p>善通寺支援学校で月2回教育相談を行い、三豊市の保健師との情報交換ができた。また、こだま学園で乳幼児のケース会を行い、具体的な支援を学んだ。</p> <p>連携訪問に行くだけでなく本校に来校してもらうことで、より具体的な支援について話げできた。交流児が通う岡山県聴覚障害児支援センター岡山かなりや学園の療育を参観し、情報交換ができた。</p>	



	目標(課題)	取組みと結果	次年度の課題・改善策
小学部	I 生きる力を育むキャリア教育 語彙の拡充や日本語文法の理解及び表出力の向上を目ざし、言語力・コミュニケーション力を高める。	相手を意識した伝え方や聞き方、さらに考える力を育てるために「話し合い活動」を重点的に取り入れた。同時に、語彙力や日本語の読み書きの力を伸ばすため、日本語文法指導にも取り組んだ。 自分の意見を表出するので精一杯だった児童が相手のことや全体のことを考えて発言するようになった。 児童の発言をつい修正していた教員が児童の発言を尊重し、児童に考えさせる機会を増やせるようになった。	I 話し合い活動をさらに豊かにするため、語彙力や日本語文法力など言語力を高める。 II 日本語文法指導をさらに小学部全体で進めるため、指導法のマニュアル化、教材教具の整理を進めていく。 III ホームページを活用し、保護者のみならず地域へも本校の取り組みを発信していく。
	II 専門性の向上 教員が学び合いながら聴覚障害教育の専門性の向上を図る。	自立活動の授業において、できるだけ多くの教員が授業に入るようにし、小学部全体で授業計画を立てたり、教材研究をしたりすることで、日本語文法の指導法が部内に浸透してきた。 教室や廊下に日本語文法の掲示物が増えたり、教員間で日本語文法の指導法について議論される場面が見られたりするようになった。学部全体で聴覚障害教育の専門性の向上を目指す意識が高まってきた。	
	III 子どもを支える連携 保護者との連携を深める。	保護者とは、主に担任が連絡を密にし連携を深めることができた。連絡帳の通信欄や評価テスト、学習成果物等に加えホームページにおいても学習状況を知らせることができた。 保護者との連絡に関する学校評価では、高評価を得た。	

	目標(課題)	取組みと結果	次年度の課題・改善策
中学部	I 生きる力を育むキャリア教育 ①知識や一般常識を身に付ける。 ②日本語・手話の力を向上させる。	①朝の会の10分を活用し、「言葉の学習」を行った。教員だけでなく生徒も発表担当者として意欲的に取り組むことができた。 ②作文や1分間スピーチに通年で取り組み、そこで培った日本語・手話の力を「学校祭の劇」「新年の誓い」で発揮することができた。	I 動画等の「記録」により、生徒の成長を可視化し、意欲向上につなげる。隙間時間の学習を継続し語彙力を増やす。 II 来年度の行事を見据えた年間学習指導計画を立て、教科横断的な指導を行う。 III 部全体の教員が生徒と関わる機会を増やすことで、コミュニケーションの般化を目指す。
	II 専門性の向上 ①教員は手話、日本語、視覚情報、聴覚活用のあらゆる手段を使って情報保障を行う。 ②授業力を向上させる。	①帰りの会の5分を活用し、「手話学習」を行った。手話を学ぶとともに、抽象的な言葉の意味を生徒にどのように分かりやすく伝えるかを考える機会となった。 ②研究授業の指導案作成の際に、部全体で生徒の実態把握をして支援を考えた。その結果、教科横断的な指導の必要性に気づくことができた。	
	III 子どもを支える連携 ①保護者と連携して生徒の自立の力を高める。 ②他機関と連携して学校外での生徒の様子を把握する。	①生徒ができるようになったことを、どのように継続させるかが課題となった。取組みの目的を共有し、三者一体となって意欲を高める対話を重視している。 ②ケース会や保護者との対話により、生徒の様子を把握することができた。また、補聴機器業者と連携することで、機器の効果的活用法を知ることができた。	

	目標(課題)	取組みと結果	次年度の課題・改善策
高等部	I 生きる力を育むキャリア教育 ①個に応じた学習内容や指導方法を検討する。 ②学習を通して、相手に伝わるコミュニケーション力や支援を依頼する力を育てる。	①電子黒板の有効な使い方や、手話の通じない相手とのアプリを使ったコミュニケーション実践を行い、職員間で生徒に効果的な指導方法についての共通理解を図った。 ②自分の聞こえや配慮してほしい事柄をまとめた「マイ ヒアリング」を作成し、大学生との交流や3年生が通った自動車学校での説明で活用することができた。	I 個に応じた学習を展開するために、生徒個々の自立活動の目標を教員間で共有し、その目標を個別の指導計画に掲載し、授業の中に反映させる。コミュニケーション力や支援を依頼する力を育てるために、三木高校に加え、新たに高松南高校との交流学习を行う。 II 重複障害生徒への関わり方を学ぶために、来年度も継続して研修会を実施し、研究実践としてまとめる。 III 保護者の意見を把握するために、次年度は定期的な進路懇談会に加え、個別懇談の機会を設ける。
	II 教員の専門性の向上 ①重複障害生徒への関わり方について学ぶ。 ②生徒の自立活動の目標について見直す。	①外部講師を招いた研修会を実施し、重複障害生徒への具体的な支援方法について学ぶことができた。 ②学部内において、個々の生徒の自立活動の目標を見直し、教員間で共有することができた。	
	III 子どもを支える連携 ①進路先の開拓を行い、保護者への丁寧な情報提供を行う。	①生徒や保護者の希望に応じて進路先を開拓し、前期・後期の現場実習へつなげ、一般就労を希望する生徒2名の進路先が決定した。進路指導部作成の進路相談・聞き取りシートを活用し、必要に応じて進路懇談を実施することができた。	



学校評議員会・学校関係者評価委員会から

令和8年2月27日（金）に第2回学校評議員会が開催されました。学校関係者評価委員会も兼ねており、学校評議員4名とPTAより3名にご参加をいただきました。



【各評議員等の方々のご意見や感想の一部を抜粋してお知らせします。】

【本校の教育について】

○重複障害のある子どもたちへの指導には、情報の伝わりにくさがあるので、五感に訴える教材が有効と思う。子どもたちの得意を見つけ出して、これからも指導を進めてほしい。

【寄宿舍について】

○様々な形での寄宿舍体験はありがたい。自立を目指すうえで我が子に寄宿舍体験をさせたい保護者はいるが、一方で寄宿舍の様々なルールの難しさから断念する場合もあるように思う。

→お子さんが入舎している保護者が他の保護者にもアピールしていただけたら嬉しい。今後も色々な形の寄宿舍体験を進めていけたらと思う。

【防災について】

○今年度、地域の方々との合同防災訓練を実施していただき、ありがとうございます。現在、全国で福祉こども避難所が設置されていて、今後も地域との連携を一層進めていけたらと思う。

→地域の方との合同防災訓練の実施をとおして、本校職員の意識も少しずつ高まってきている。今後は、引き渡し訓練、地域の緊急避難所、子ども福祉避難所のセットで実施できるようにしていきたい。

【学校の情報発信について】

○今後、学校のPRを進めていくために、SNSの活用やメディアへの情報提供が重要と思う。ぜひ進めてほしい。

→学校としても重要性を認識している。検討していきたい。

【学校評価について】

○生徒が少ない中で、今後、生徒が増えたらどういう対応をしていくかを、今の評価から分析していくことが今後、重要になる。また評価が高い項目からも、「できていない」「もっときめ細やかにしたほうがよい」「足りない」ところを見つけて改善・意識していくことが重要と思う。

○グランドデザインからの重点目標、その手立てと評価という流れについては、昨年度と比べ改善が見られた。

この他にも、貴重なご意見を多数いただきました。学校で改善する必要があるものについては、すでに検討を始めているものもあります。今後も、学校評議員会にてご意見を拝聴し、検討・改善を進めてまいります。

令和7年度（幼稚部自己評価）〔集計表〕

（教員による自己評価）

香川県立聴覚支援学校

- 【評価基準】 A: 十分に達成している。全く問題ない。
 B: ほぼ達成している。特に問題はない。
 C: あまり達成していない。問題点を整理する必要がある。
 D: 達成していない。改善・工夫が必要である。

回収率 100%

I 学校/グラウンドデザイン重点目標（各部共通）	A	B	C	D	B以上[%]
① 「自分の思いを発信する」ことを意識して機会や場面を設定し、指導したり自分自身も取り組んだりする。	0	4	0	0	100%
II 幼稚部における全体目標	A	B	C	D	B以上[%]
① 基本的な生活習慣を養い、健康で明るく生き生きとした子どもを育む。（部全体）	1	3	0	0	100%
② 一人一人に応じたコミュニケーションの基礎の力を養い、伝え合うことを楽しむ子どもを育む。（部全体）	0	4	0	0	100%
③ 様々な体験や人との関わりを通して、学校生活や遊びを楽しみ、自分の力で頑張ろうとする子どもを育む。（部全体）	2	2	0	0	100%
III 重点課題における目標	A	B	C	D	B以上[%]
① やりとりを楽しむような関わり(子どもの気持ちの理解・受け止め・共感)をする。（各個人）	2	2	0	0	100%
② 子どもの実態に応じた環境設定や視覚教材、日々の活動を工夫をする。（各個人）	0	4	0	0	100%
③ 各行事を事前に検討し、視覚教材を整理、作成する。（部全体）	2	2	0	0	100%
④ 他の障害や病気を理解し、個々の実態に応じたコミュニケーションの支援を行う。（各個人）	1	3	0	0	100%
IV 学習指導（自立）における目標	A	B	C	D	B以上[%]
① 子どもの聞こえ等に配慮するとともに、言語力の向上を図る。（各個人）	0	4	0	0	100%
V 交流及び連携に関する目標	A	B	C	D	B以上[%]
① 交流する園やデイサービスと情報を共有し、子どもや保護者への支援に役立てる。（部全体）	3	1	0	0	100%
② 病院や保健師、こだま学園との連携を丁寧に行い、子どもの様子や支援について情報共有する。（部全体）	2	2	0	0	100%
③ さんさん交流に来る幼児が在籍する園と連携し、子どもの様子や支援について情報共有する。（部全体）	1	3	0	0	100%
VI 管理、運営面における目標	A	B	C	D	B以上[%]
① 職員間の情報伝達（報告・連絡・相談等）を円滑に行う。（各個人）	1	2	1	0	75%
② 集金処理や会計処理を適切に行う。（各個人）	1	3	0	0	100%

令和7年度（幼稚部 保護者評価）[集計表]

(保護者による評価)

香川県立聴覚支援学校

- 【評価基準】 A: 十分に達成している。全く問題ない。
 B: ほぼ達成している。特に問題はない。
 C: あまり達成していない。問題点を整理する必要がある。
 D: 達成していない。改善・工夫が必要である。

回収率 100%

I 保育指導について	A	B	C	D	B以上 [%]
① お子様は、先生や友達と一緒に、楽しく学校生活を送ることができましたか。	2	0	0	0	100%
② 日々の保育内容や行事は、お子様の興味、関心に合っていましたか。	2	0	0	0	100%
③ お子様は、この1年間で、できることが増えていますか。	2	0	0	0	100%
④ 教職員は、聞こえや発音、お子様に応じたコミュニケーション手段（音声、手話、指文字、身振りサインなど）に関して、配慮していましたか。	2	0	0	0	100%
II 人権・同和教育の取り組みについて	A	B	C	D	B以上 [%]
① 教職員は、教育活動全般においてお子様の人権に配慮した指導を行っていますか。	2	0	0	0	100%
III 学校保健活動について	A	B	C	D	B以上 [%]
① けがや病気に対する救急処置や健康診断、健康相談、保健指導等の保健室の役割が十分なされていますか。	1	1	0	0	100%
② 給食はお子様の食育活動になっていますか（食事のマナー、食材の下準備、給食だより、給食週間等）。	1	1	0	0	100%
IV ホームページについて	A	B	C	D	B以上 [%]
① 本校の教育について分かりやすく知らせる内容・構成になっていますか。	1	1	0	0	100%
V その他	A	B	C	D	B以上 [%]
① 懇談や連絡帳などによって、学校でのお子様の様子を伝えたり、相談に適切に応じたりすることができていましたか。	2	0	0	0	100%
② 学習会や研修会等で、必要な情報を得ることができましたか。	2	0	0	0	100%

令和7年度（小学部自己評価）[集計表]

(教員による自己評価)

香川県立聴覚支援学校

【評価基準】

A: 十分に達成している。全く問題ない。

B: ほぼ達成している。特に問題はない。

C: あまり達成していない。問題点を整理する必要がある。

D: 達成していない。改善・工夫が必要である。

回収率 100%

I 学校/グランドデザイン重点目標（各部共通）	A	B	C	D	B以上 [%]
① 「自分の思いを発信する」ことを意識して機会や場を設定し、指導したり自分自身も取り組んだりすることができた。	4	7	0	0	100%
II 小学部における全体目標	A	B	C	D	B以上 [%]
① 一人一人の実態を把握して障害の特性に応じた指導上の配慮を行い、学力や社会へ出るために必要な基本的な力の向上を図る。（各個人）	3	8	0	0	100%
② 学校生活全般を通して言語活動の場を設定し、コミュニケーションの拡充を図る。（部全体）	6	5	0	0	100%
③ 望ましい生活習慣の形成を通して、健康や安全に関心をもとうとする態度を育成する。（部全体）	5	6	0	0	100%
III 学習指導における全体目標	A	B	C	D	B以上 [%]
① 担当した教科等の指導を、個別の指導計画に沿って進める。（各個人）	3	8	0	0	100%
② 各教科等の授業において、言語指導を意識した指導を行う。（各個人）	3	8	0	0	100%
③ ICT機器等を活用した授業を展開し、分かる授業を目指したり、児童へ活用を促したりする。（各個人）	1	9	1	0	91%
IV 生徒指導における全体目標	A	B	C	D	B以上 [%]
① 児童・学級担任・保護者間での情報共有を図るため、連絡帳の活用・情報の発信・三者間のやりとりを行う。（各個人）	4	7	0	0	100%
V 進路指導における全体目標	A	B	C	D	B以上 [%]
① 「キャリア教育」を意識し、将来を見据えた教育活動を実施する。（部全体）	1	10	0	0	100%
VI 管理、運営面における目標	A	B	C	D	B以上 [%]
① 各担当区域の環境整備（設備、防災、衛生、安全面）を適切に行う。（各個人）	5	6	0	0	100%
② 各部内での職員間の情報伝達（報告・連絡・相談等）を円滑に行う。（各個人）	4	7	0	0	100%

令和7年度 (小学部 保護者評価) [集計表]

(保護者による評価)

香川県立聴覚支援学校

- 【評価基準】 A: 十分に達成している。全く問題ない。
 B: ほぼ達成している。特に問題はない。
 C: あまり達成していない。問題点を整理する必要がある。
 D: 達成していない。改善・工夫が必要である。

回収率 100%

I 学習指導について	A	B	C	D	B以上 [%]
① お子様の各学期の目標 (生活面・学習面) は、達成できましたか。	3	6	0	0	100%
② 教員はお子様の聞こえに配慮し、手指メディア (手話、指文字等)、ICT 機器・教材 (タブレット端末、パソコン等)、絵カードなどの視覚的な方法を活用した指導ができていましたか。	8	1	0	0	100%
③ 学級懇談会や連絡帳、学級通信等によって、学校でのお子様の状況が適切に伝えられていましたか。	8	1	0	0	100%
④ 教員は、通知表等において、お子様の能力や努力を適切に評価できていましたか。	8	1	0	0	100%
⑤ 教員は、日々の家庭での宿題・課題等を適切に提供して指導できていましたか。	7	2	0	0	100%
II 人権・同和教育の取組みについて	A	B	C	D	B以上 [%]
① 教職員は、教育活動全般においてお子様の人権に配慮した指導を行っていますか。	8	1	0	0	100%
III 学校保健活動について	A	B	C	D	B以上 [%]
① けがや病気に対する救急処置や健康診断、健康相談、保健指導等の保健室の役割が十分なされていますか。	8	1	0	0	100%
② 給食はお子様の食育活動になっていますか (食事のマナー、食材の下準備、給食だより、給食週間等)。	8	1	0	0	100%
IV ホームページについて	A	B	C	D	B以上 [%]
① 本校の教育について分かりやすく知らせる内容・構成になっていますか。	6	3	0	0	100%
V その他	A	B	C	D	B以上 [%]
① 教員から、お子様の悩みや学習面、生活面での困難さ等について、適切なアドバイスがなされていましたか。	8	1	0	0	100%
② 教員から進級や進学について、情報提供や相談が適切におこなわれていますか。	7	2	0	0	100%

令和7年度（中学部自己評価）[集計表]

(教員による自己評価)

香川県立聴覚支援学校

【評価基準】

- A: 十分に達成している。全く問題ない。
 B: ほぼ達成している。特に問題はない。
 C: あまり達成していない。問題点を整理する必要がある。
 D: 達成していない。改善・工夫が必要である。

回収率 100%

I 学校/グラウンドデザイン重点目標（各部共通）	A	B	C	D	B以上 [%]
① 「自分の思いを発信する」ことを意識して機会や場面を設定し、指導したり自分自身も取り組んだりする。	5	1	0	0	100%
II 中学部における目標	A	B	C	D	B以上 [%]
① 一人一人の実態を把握し、障害の特性などに応じた指導上の配慮をより充実させ、生活力及び学力の向上を図る。（各個人）	5	0	1	0	83%
② 個々に応じた言語活動をとって、コミュニケーション能力を高め、人と関わる力を育てる。（部全体）	3	3	0	0	100%
③ 体験的な学習や交流及び共同学習を通して、主体的に考え、行動する力を育む。（部全体）	4	2	0	0	100%
III 学習指導における目標	A	B	C	D	B以上 [%]
① 生徒の実態や目標を部全体で共有し、個別の指導計画に沿って指導を行い、学力等の向上を図る。（各個人）	3	3	0	0	100%
② ICTを積極的に活用して指導するとともに、生徒がICTを活用する力を育成する。（各個人）	4	2	0	0	100%
③ 手話・音声・文字等あらゆる手段を用いて、生徒が分かる授業を行う。（各個人）	4	0	2	0	67%
IV 生徒指導における目標	A	B	C	D	B以上 [%]
① 生徒・学級担任・保護者間での情報共有を図るため、連絡帳の活用・情報の発信・三者間のやりとりを行う。（各個人）	3	2	0	0	100%
② 相手の立場に立ったコミュニケーションができるようになるなど、思いやりのある人間性を育成する。（部全体）	4	2	0	0	100%
V 進路指導における目標	A	B	C	D	B以上 [%]
① 係活動や役割の経験を通して自主性を育てながら自己有用感を向上させる。（部全体）	3	3	0	0	100%
② 保護者・生徒とともに、卒業後の姿を考えて目標を設定し、社会で生活していくために必要な力を育てる。（部全体）	4	2	0	0	100%
VI 管理、運営面における目標	A	B	C	D	B以上 [%]
① 各担当区域の環境整備（設備、防災、衛生、安全面）を適切に行う。（各個人）	2	4	0	0	100%
② 各部内での職員間の情報伝達（報告・連絡・相談等）を円滑に行う。（各個人）	3	2	1	0	83%

令和7年度授業評価(中学部生徒) ～集計表～

香川県立聴覚支援学校

- ・とてもできている、はいと思う場合は、「◎」と書いてください。
- ・ほぼできている、まあまあと思う場合は、「○」と書いてください。
- ・あまりできていないと思う場合は、「×」と書いてください。

回収率 100%

重点目標に関する項目	◎	○	×
① 自分の思いを先生や友達に伝えることができる。	2	0	0

授業に関する項目	◎	○	×
① 授業は楽しく、安心して受けられる。	1	1	0
② 授業でわからないことについて先生に質問しやすい。	2	0	0
③ 先生は見えてわかりやすい資料やビデオ、コンピューターなどをよく使ってくれる。	1	1	0
④ 先生は手話・音声・文字等を使ってわかりやすく教えてくれる。	2	0	0
⑤ 先生は生徒の意見や考え方をよく聞いてくれ、大切にしてくれる。	1	1	0

自分自身に関する項目	◎	○	×
① 学習の準備や服装を整えて授業の始まりを待っている。	2	0	0
② 授業の内容を理解しようと努力している。	0	2	0
③ 授業中わからないところは質問している。	2	0	0
④ 他の人の発表をよく理解しようと努力している。	2	0	0
⑤ 宿題をきちんとしている。	1	1	0

令和7年度 (中学部 保護者評価) [集計表]

(保護者による評価)

香川県立聴覚支援学校

- 【評価基準】 A: 十分に達成している。全く問題ない。
 B: ほぼ達成している。特に問題はない。
 C: あまり達成していない。問題点を整理する必要がある。
 D: 達成していない。改善・工夫が必要である。

回収率 100%

I 学習指導について	A	B	C	D	B以上 [%]
① お子様の各学期の目標（生活面・学校面）は達成できましたか。	1	1	0	0	100%
② お子様は、個々に応じた言語活動の指導を通して、コミュニケーション面での成長が感じられましたか。	1	1	0	0	100%
③ お子様は、学校行事、校外学習や交流学习、職場体験等の体験活動に意欲的に取り組むことができましたか。	1	1	0	0	100%
④ 教員は、お子様の実態に配慮して、手話や指文字、ICT機器等を用いたわかりやすい指導ができていますか。	1	1	0	0	100%
⑤ 教員は、通知表等でお子様の能力や努力を適正に評価していますか。	1	1	0	0	100%
II 学校の様子の共有について	A	B	C	D	B以上 [%]
① 学級懇談会や連絡帳等によって学校と家庭との情報交換等を適宜行うことができますか。	1	1	0	0	100%
② 学級通信や懇談等で、お子様の進路について、情報提供や相談が適切に行われていますか。	1	1	0	0	100%
III 人権・同和教育の取り組みについて	A	B	C	D	B以上 [%]
① 教職員は、教育活動全般においてお子様の人権に配慮した指導を行っていますか。	1	1	0	0	100%
IV 学校保健活動について	A	B	C	D	B以上 [%]
① けがや病気に対する救急処置や健康診断、健康相談、保健指導等の保健室の役割が十分なされていますか。	1	1	0	0	100%
② 給食はお子様の食育活動になっていますか（食事のマナー、食材の下準備、給食だより、給食週間等）。	1	1	0	0	100%
V ホームページについて	A	B	C	D	B以上 [%]
① 本校の教育について分かりやすく知らせる内容・構成になっていますか。	1	1	0	0	100%

令和7年度（高等部自己評価）[集計表]

(教員による自己評価)

香川県立聴覚支援学校

- 【評価基準】 A: 十分に達成している。全く問題ない。
 B: ほぼ達成している。特に問題はない。
 C: あまり達成していない。問題点を整理する必要がある。
 D: 達成していない。改善・工夫が必要である。

回収率 100%

I 学校/グランドデザイン重点目標（各部共通）	A	B	C	D	B以上[%]
① 「自分の思いを発信する」ことを意識して機会や場面を設定し、指導したり自分自身も取り組んだりする。	5	7	0	0	100%
II 高等部における全体目標	A	B	C	D	B以上[%]
① 個に応じた丁寧な学習指導や、指導方法の検討を行い、現場実習や進路希望先の見学など校外での活動を充実し、一人一人の進路目標の実現を図る。（部全体）	4	8	0	0	100%
② 学校生活全般を通して活発なコミュニケーションの場を設けるとともに、社会で活かせるコミュニケーション力を高める取組を進め、卒業後の望ましい対人関係を構築する姿勢を育成する。（部全体）	8	4	0	0	100%
③ 生徒会活動、校内外での自主的な活動を推進し、生涯学習・スポーツにつなげるとともに、自立して社会参加できる意欲・態度を育てる。（部全体）	2	10	0	0	100%
III 学習における全体目標	A	B	C	D	B以上[%]
① 担当教科等の指導を個別の指導計画に沿って行い、学力等の向上を図る。（各個人）	3	9	0	0	100%
② 個々の進路希望に応じた学力の向上と、それに対応した具体的な目標及び内容を設定し取り組む。（部全体）	4	8	0	0	100%
③ ICT機器等を活用した授業を推進し、生徒が分かる授業を目指したり、生徒へ活用を促したりする。（部全体）	4	7	1	0	92%
IV 生徒指導における全体目標	A	B	C	D	B以上[%]
① いじめ等が生じないよう、相手の立場に立ったコミュニケーションができるようになるなど、思いやりのある人間性を育成する。（部全体）	4	8	0	0	100%
② 学校のルールを守り、服装等を整え、規律正しい生活が送れるよう指導する。（部全体）	5	6	1	0	92%
V 進路指導における全体目標	A	B	C	D	B以上[%]
① 生徒一人一人の学習意欲を高め、個別の進路に対応する学力を身につけ、進路希望の実現を図る。（部全体）	3	9	0	0	100%
② 朝学習や個別指導を効率よく実施し、個々の生徒の能力を伸ばすなど、確かな学力の向上を図る。（部全体）	4	8	0	0	100%
VI 管理・運営面における目標	A	B	C	D	B以上[%]
① 各担当区域の環境整備（設備、防災、衛生、安全面）を適切に行う。（各個人）	6	6	0	0	100%
② 部内での職員間の情報伝達や意見交換を行い、共通理解を図る。（各個人）	6	4	2	0	83%

令和7年度（高等部生徒自己評価）[集計表]

(教員による自己評価)

香川県立聴覚支援学校

- 【評価基準】 S: とてもできている、はい
 A: ほぼできている、まあまあ
 B: あまりできていない

回収率 100%

I 重点目標に関する項目	S	A	B	B以上 [%]
① 自分の考えや意見を先生や友達に伝えることができる。	7	9	2	89%

II 授業に関する項目	S	A	B	B以上 [%]
① 授業の進む速さはちょうどよい。	6	12	0	100%
② 先生の話し方（手話、指文字等も含む）がはっきりして、言っていることがわかりやすい。	5	12	1	94%
③ 先生は自分や友だちの意見や考え方をよく聴いてくれ、大切にしている。	8	10	0	100%
④ 板書は見やすく、わかりやすい。	5	8	0	100%
⑤ 先生は目で見てわかりやすい資料やビデオ、コンピュータ等をよく使ってくれる。	4	11	3	83%
⑥I 先生がつけている成績（通知表）は納得できる。	8	4	0	100%
⑥II 宿題の量や内容は自分の成績向上のためになっている。	2	4	0	100%

III 自分自身に関する項目	S	A	B	B以上 [%]
① 教材（服装等含む）を準備して授業の始まりを待っている。	6	12	0	100%
② 私語などをせず、先生の説明を理解しようと努力している。	4	13	1	94%
③ 授業中わからないところは質問している。	2	15	1	94%
④ 他の人の発表を理解しようと努力している。	2	11	1	93%
⑤ 予習・復習や宿題をきちんとしている。	1	13	0	100%

令和7年度（高等部 保護者評価）[集計表]

(保護者による評価)

香川県立聴覚支援学校

- 【評価基準】 A: 十分に達成している。全く問題ない。
 B: ほぼ達成している。特に問題はない。
 C: あまり達成していない。問題点を整理する必要がある。
 D: 達成していない。改善・工夫が必要である。

回収率 100%

I 学習指導について	A	B	C	D	B以上 [%]
① お子様がホームルーム等で立てた各学期の目標は、達成できていますか。	2	7	0	0	100%
② 学校生活全般にわたって、個に応じた指導ができていますか。	5	4	0	0	100%
③ 通知表等において、お子様の成果や努力が適正に評価されていますか。	5	4	0	0	100%
④ コミュニケーション面での指導が行われ、対人関係面でお子様の成長が感じられましたか。	4	5	0	0	100%
II 部活動について	A	B	C	D	B以上 [%]
① お子様の目標に応じて、個の能力を十分に発揮できるよう指導されていますか。	3	6	0	0	100%
III 人権・同和教育の取り組みについて	A	B	C	D	B以上 [%]
① 教職員は、教育活動全般においてお子様の人権に配慮した指導を行っていますか。	5	4	0	0	100%
IV 学校保健活動について	A	B	C	D	B以上 [%]
① けがや病気に対する救急処置や健康診断、健康相談、保健指導等の保健室の役割が十分なされていますか。	4	4	1	0	89%
② 給食はお子様の食育活動になっていますか（食事のマナー、食材の下準備、給食だより、給食週間等）。	4	5	0	0	100%
V ホームページについて	A	B	C	D	B以上 [%]
① 本校の教育について分かりやすく知らせる内容・構成になっていますか。	4	5	0	0	100%
VI その他	A	B	C	D	B以上 [%]
① お子様の学校生活での悩みや相談等について、教職員が適切な対応をしていますか。	5	3	1	0	89%
② お子様の進路について、情報提供や個に応じた指導が適切になされていますか。	5	3	1	0	89%

令和7年度（学校評価 他分掌評価）[集計表]

(教員による評価)

香川県立聴覚支援学校

【評価基準】

- A: 十分に達成している。全く問題ない。
 B: ほぼ達成している。特に問題はない。
 C: あまり達成していない。問題点を整理する必要がある。
 D: 達成していない。改善・工夫が必要である。

回収率 100%

I 他分掌評価		A	B	C	D	B以上 [%]
教務	個別の教育支援計画の、意義や目的について現職教育で説明を行う。また諸表簿の点検を計画的に実施するとともに、効果的な運用について検討する。	22	7	0	0	100%
研究	グループ研や現職教育、新転任者研修及び3年以下経験者研修、手話研修等を通して、教員の専門性向上への意識を高める。	19	11	1	0	97%
メディア教育	視聴覚機器やタブレット端末等を授業等で活用しやすいように、使用方法をまとめたマニュアルを作成し、研修会等で周知する。また、教職員、幼児児童生徒が積極的に使用できるよう環境を整えたり、効果的な使用方法を共有したりする。	16	15	1	0	97%
人権・同和教育	幼児児童生徒へのよりよい指導に向けて、人権教育について共通理解を図り、人権感覚・人権意識向上を目指した教職員研修を行う。	16	14	1	0	97%
生徒指導	幼児児童生徒が安心して落ち着いた学校生活を送ることができるよう、各種の指導（交通安全、携帯電話安全利用等）を各部の実態に応じて効果的に実施する。 幼児児童生徒が主体的な活動を通して自己肯定感を育むことができるよう、各部の実態に応じた交流活動や児童生徒会活動を計画する。	17	13	1	0	97%
保健	幼児児童生徒が元気な心と身体づくりをめざし、給食を通して食への関心を高めるために、栄養教諭と連携し食に関する授業を各学部で計画・実施する。感染症・衛生面に配慮した配膳等の体験活動も積極的に行う。	22	8	0	0	100%
進路指導	進路希望調査や学期末懇談での聞き取りを取りまとめ、職員間で共有する。幼児児童生徒それぞれの希望や実態に合った進路実現を目指し、予測される実習や進路先の新規開拓を進める。研修や講演・進路だより等で情報提供を行う。	16	15	1	0	97%
環境管理	幼児児童生徒が安全安心な学校生活を送るために、全職員が発災時の避難経路や役割分担を考えて行動できるよう、各避難訓練を計画的に実施する。	18	12	1	0	97%
総務	子どもの将来に向けて必要な情報が得られるよう、PTA学級や保護者研修会などのPTA活動を、本校の実状に応じて計画・実施する。	16	15	0	0	100%
きこえとことば	職員会議等できこえとことばの相談支援センターの活動について報告を行い、センター的機能についての理解を進める。	19	12	0	0	100%
寮務	寄宿舍での活動や取り組みについて、理解推進を図る。	27	6	0	0	100%